青列車の秘密　　THE MYSTERY OF THE BLUE TRAIN

2005年作品

製作：トレヴァー・ホプキンス　　監督：ヘティ・マクドナルド　　脚本：ガイ・アンドルーズ

日本語版プロデューサー：里口 千　日本語版演出：高橋 剛　　日本語版翻訳：たかしま ちせこ

出演：

エルキュール・ポワロ … デビッド・スーシェ／熊倉 一雄

※　※　※

デレック・ケタリング … ジェイムズ・ダーシー／咲野 俊介

レノックス … アリス・イヴ／山田 里奈

ナイトン … ニコラス・ファレル／金尾 哲夫

アダ・メイソン … ブロナー・ギャラガー／菅原 あき

コーキー … トム・ハーパー／川島 得愛

ルース・ケタリング … ジェイム・マリー／吉田 陽子

キャサリン … ジョージナ・ライランス／井上 喜久子

ミレル・ミレシ … ジョゼッテ・シモン／杉村 理加

レディー・タンプリン … リンゼイ・ダンカン／鈴木 弘子

ルーファス・ヴァン・オールデン … エリオット・グールド／横内 正

©Agatha Christie Ltd (A Chorion Company), ITV Studios Limited in association with A&E Television Networks and Agatha Christie Ltd (A Chorion Company). 2005

ポワロは、思いもよらぬ遺産を手にしたばかりの女性キャサリンと知り合う。偶然にも2人は、同じニース行きのブルー・トレインに乗る予定だった。ところが、その列車の中で石油王ヴァン・オールデンの娘ルースが殺害され、彼女が持っていた曰くつきの宝石【炎のハート】が消える。狙われたのはルースか？それとも彼女と客室を交換していたキャサリンか？列車には、2人のどちらかに殺人の動機を持つ人々が多く乗り合わせていた。

◆新たな製作者（プロデューサー）

本シリーズを立ち上げ長く製作を担当して来たブライアン・イーストマンに代わり、第9シリーズにあたる『五匹の子豚』からの4作品を担当したマーガレット・ミッチェルでしたが、この第10シリーズからまた新たに、トレヴァー・ホプキンスが製作の任に就くことになりました。

第10シリーズの冒頭は、クリスティ作品の華とも云うべきトラベル・ミステリの中でも、豪華列車を舞台とする一編。原作は短編『プリマス行き急行列車』を発展させたもので、作者自身はその出来に得心せず読者に申し訳ないとさえ述べている反面、謎解きとロマンスの趣を合わせ持った冒険譚としてファンに親しまれています。

◆“豪華列車”ミステリの傑作

映像化にあたってはビジュアル面が重視されたか、登場人物やポイントとなる宝石“炎のハート”の位置づけが整理され冒険サスペンスの味わいが抑えられた代わりに、大掛かりなロケとCG技術で南仏の美しさとブルー・トレインの旅情を強調した、いかにもTVドラマらしい作りとなっています。

列車にちなんだ豪華な作りの本話は、スーシェや製作陣に対し、未映像化諸作の中でも特に名高き逸品を彷彿とさせたのでしょうか。本話ラストのポワロとキャサリンの会話ではオリエント急行について触れられ、いよいよ次シリーズで傑作『オリエント急行の殺人』が予定されました。期待に反して諸事情で延期となったものの、遂にその次、第12シリーズにて、晴れてお目見えとなります。

◆根性あるすれっからし

ナイトン役のニコラス・ファレルは、本シリーズ中期の傑作『ABC殺人事件』にも出演。奇態な連続殺人における被害者ゆかりの一人、“B”の被害者ベティの死に傷つく恋人ドン・フレーザー役をご記憶の方も少なくないのでは。

富豪ヴァン・オールデンに扮しているのは米の大ヴェテラン、エリオット・グールド。代表作『M★A★S★H マッシュ』(1970)により、’70年代アメリカがはらんだ熱気の一翼を担った性格俳優で、同じくロバート・アルトマン監督と組んだ『ロング・グッドバイ』(1973)の現代風フィリップ・マーロウ、『カプリコン・1』(1977)で稀代のスクープをものにする記者コールフィールドなど、相通ずる“根性あるすれっからし”役にファン人気の熱い名優です。